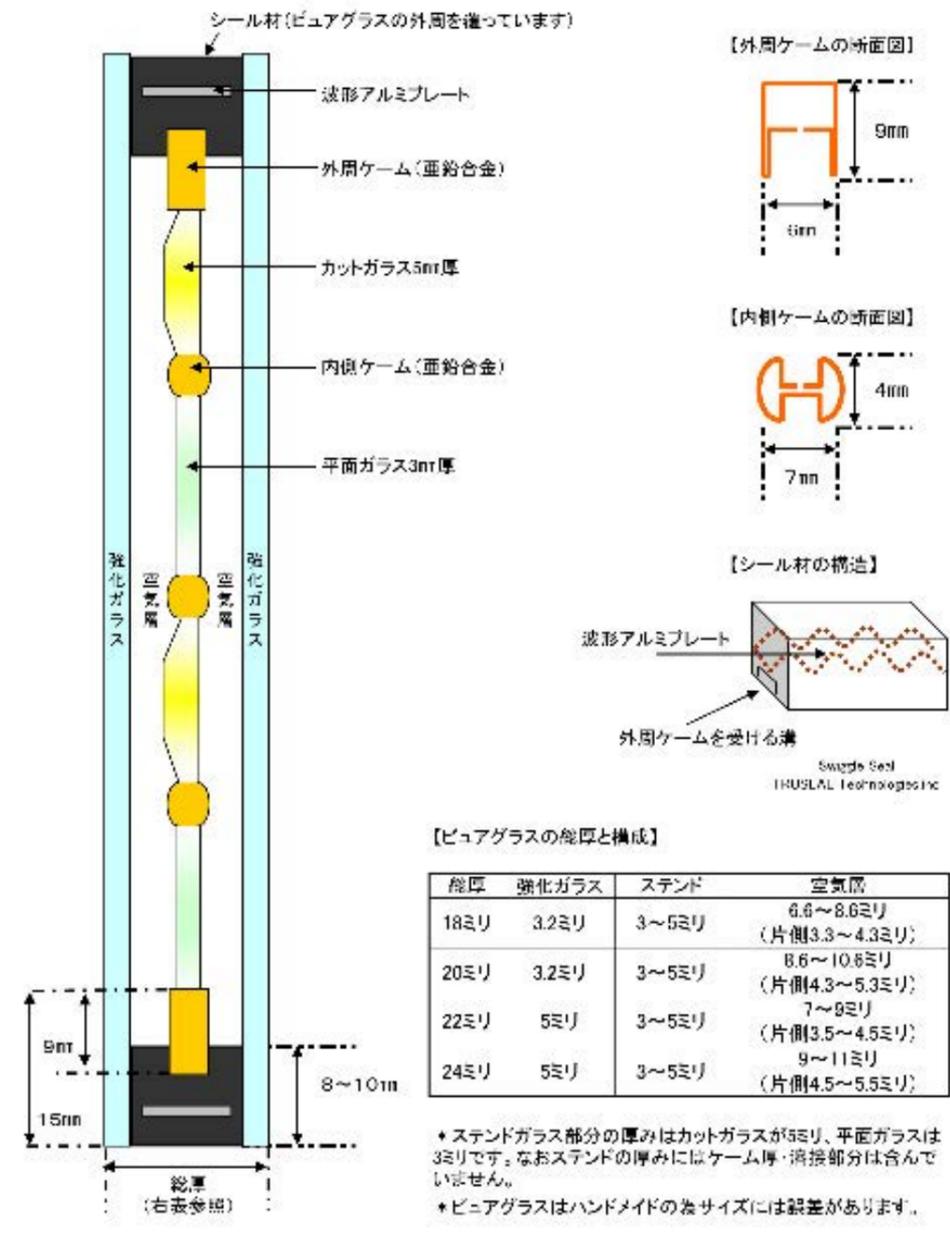
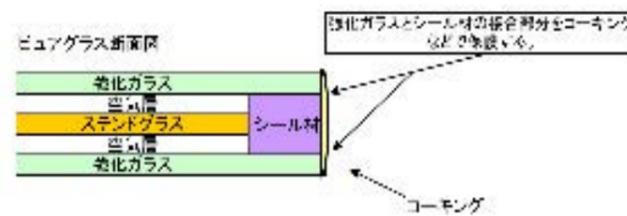


【ピュアガラスの断面詳細図】



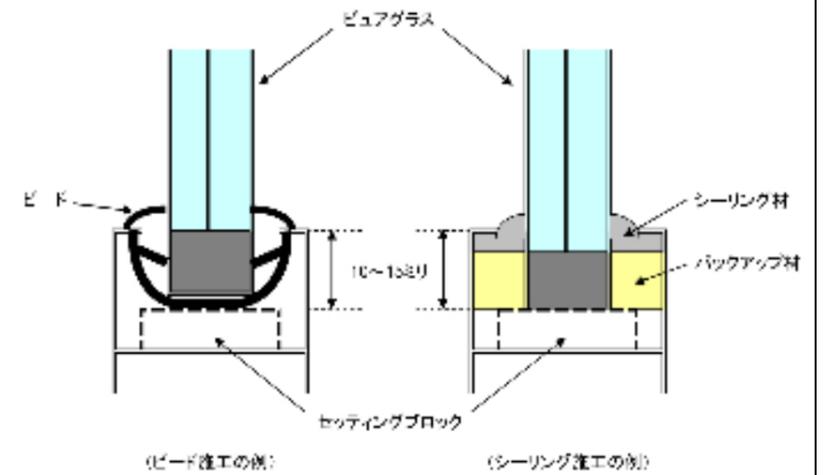
【エクステリアや外部で使用する際の留意点】

①ピュアガラスは強化ガラスとステンドガラスをシール材により密閉固定・保護しており、内部に水や埃などが入らないように製作していますが、屋外への施工時には万が一のためにピュアガラス外周部をコーキングで覆い、毛細管現象などによる水分の浸入防止策を施して下さい。②ブロック塀やコンクリート壁などに施工する際は、ガラスに直接荷重がかからないように施工して下さい。またコンクリートの伸縮によるガラスの破損を防止する為に緩衝材を入れるなどし、直接ガラスとコンクリート等が接触しないようにして下さい。



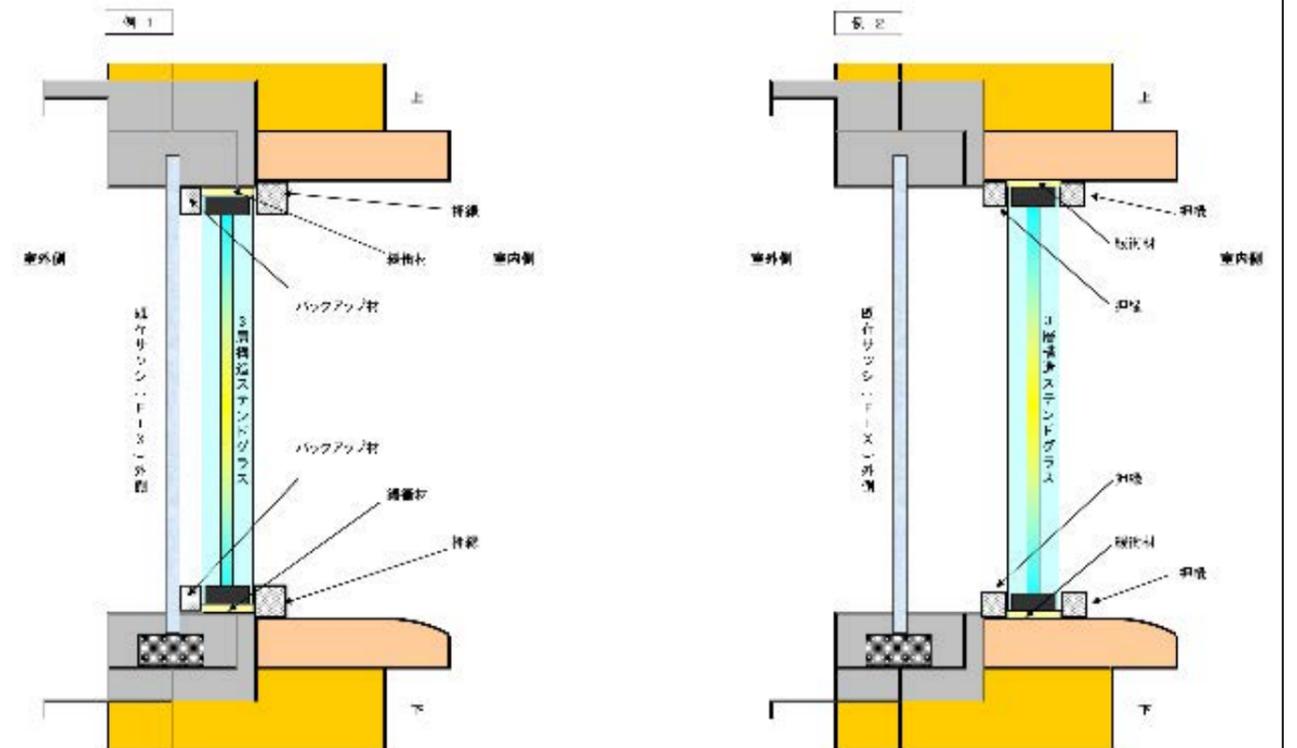
①サッシを組む際にはピュアガラスの回りにビード(グレイジングチャンネル)を取り付けて下さい。この時のガラスのかかりしろは10ミリ~15ミリとして下さい。②尚、サッシはガラス端部に接する水を排除できる構造にし、特に下部には縦部から流れ落ちる水を含め、サッシ内に浸入した水を速やかに排除できる構造として下さい。③また、安全なエッジクリアランスが保たれるような緩衝材(セッティングブロック)を設けて、サッシ部材とガラス端部の直接接触を避ける構造とし、下部の緩衝材は水抜き穴への水の移動を妨げないような設置位置、構造として下さい。④ビードを使用せずシーリングによる施工の場合、ガラスはめ込み溝の側面とガラス面との間のクリアランス部分にバックアップ材を挿入して下さい。⑤ピュアガラスは水や埃が内部に浸入しない構造となっていますが、ビードの劣化や毛細管現象による水分の浸入などに備え、予めピュアガラスの外周部(強化ガラスエッジ部分とシール材面)にコーキング材を施しておくといっそうの防止策となります。

【アルミサッシに取り付ける際の基本的留意事項】



丈夫で安全な  
強化ガラス三層構造  
ステンドガラス  
「ピュアガラス」

【既存サッシ(FIX)へ窓への施工例】



①開口部に対して作製するピュアガラスの基本サイズは高さ・幅ともにマイナス5~6mm程度小さくしますが、緩衝材などの厚みにより調整ご注文下さい。尚、製品はハンドメイドの為サイズに若干の誤差を生じる場合がありますのでご了承下さい。②既存サッシのガラス面からの距離(ピュアガラスの取付位置)はサッシの形状や現場に応じて調整し、状況によりバックアップ材や緩衝材を使用して下さい。また直接ガラスに衝撃や荷重がかかる事のないように施工して下さい。③ピュアガラスの固定はアルミ型材や木製の押縁を使い、押縁のサイズは10~15mm角が基本ですが、窓やサッシの形状、現場の状況により安全に固定できるサイズとして下さい。尚、ピュアガラスのシール材(黒色部分)が隠れるようにすると綺麗に仕上がります。

——ピュアガラスを安全にお使いいただくために——

- ◇トップライトや高所・傾斜面、破損して脱落した場合に人が怪我をするおそれのある場所等に施工する場合、全面に飛散防止フィルムを貼るなどの落下防止措置をとられることをおすすめします。
- ◇窓に施工する場合、地震等の建物の揺れにより窓枠が変形し、ガラスが破損することがあります。窓枠とガラスとのクリアランスを十分に確保し、変形を吸収できるようにして地震時のガラスの破損を防止して下さい。
- ◇ガラスのエッジやコーナー部分に硬いものなどを当てると破損する事がありますので施工時や運搬時には特にご注意下さい。
- ◇外部で使用する場合、ピュアガラス外周部の強化ガラスエッジ部分とシール材面をコーキング材等で保護するように覆って下さい。
- ◇ピュアガラスは水中又は常時水にさらされる場所、極端に温度差のある環境、気圧に変化の生じる場所でのご使用は避け下さい。
- ◇強化ガラスは万一割れても破片が細かい粒状となり、フロート板ガラスの鋭角的な破損状況と違い危険性が少なく、より安全性の高いガラスです。強度としては一般的なガラスに比べ3~5倍の強度がありますが、反面、先の尖ったもので衝撃を加えると簡単に破損する場合があります。
- ◇強化ガラスはガラス表面に出来たキズなどが原因で破損することがあります。この場合は時間が経過して、尚且つ外力が加わっていない状態で不意に起こることがあります。
- ◇強化ガラスは破損する際は一瞬にしてガラスの全面が細かく粒状に破砕します。破片は粒状にバラバラになることもありますが、破砕しても離れずに破片の固まりになる場合もあります。